

1. 科目名 (単位数)	レクリエーションワーク (2単位)	3. 科目番号	GEHL1102
2. 授業担当教員	中村 裕		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション・体育関係の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	これからの社会の課題としてのレクリエーションについて学習する。まず、ライフステージ (幼児・児童・青年・老年・障がい者等) に対応したレクリエーション支援の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術 (個別・グループ・環境) を実践的に身に付け、活用できるようにすることを目的とする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1, 日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得するために必要な知識・技術を得る。 2, コミュニケーション・ワークの楽しみ方を体験し、知ることができる。 3, 対象者に合わせたレクリエーション支援を企画し、実践することができる。 4, レクリエーション支援を実践することによって、自分自身からまわりの人へレクリエーションを発信できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 各対象者に合った (子どもの場合は運動発達、運動能力) レクリエーション企画案の作成 2. 企画案に沿った運営の実施 3. 運営後の評価および今後の課題		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 特になし (必要に応じて資料を配布) 【参考書】 日本レクリエーション協会編『レクリエーション支援の基礎』		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. レクリエーションの特質を捉えて、自己への挑戦・前向きな姿勢 (出席状況含む) を評価規準とする。 2. 実技発表への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 3. 授業を振り返り、レクリエーションへの考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。 ○評定の方法 1. 授業への積極的参加態度 50% (出席状況や意見発表を含む) 2. 実技発表・課題レポート 40% 3. 振り返りのレポート 10% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。		
12. 受講生へのメッセージ	レクリエーションの意義や特性を把握し基礎的な知識、応用的な知識を学習します。実際に体験をすることでレクリエーションの楽しさを理解するはずですが、最終的にはレクリエーションを自ら立案し、援助できる能力を培ってください。保育現場や様々なところできっと役に立ちます。また、一つのレクリエーションを対象者に合うようにアレンジし、オリジナルなものを生み出すことにも挑戦します。たのしい授業にしていきたいと思います。 授業においては以下のルールを守るようにお願いします。 1. 実技を行う場合は運動できる服装で参加してください。(髪型、靴など: 室内の場合、室内用シューズ) 2. 欠席、遅刻、早退は原則禁止です。やむをえない理由の場合は必ず届け出てください。 3. 自主的なおかつ積極的な授業参加を望みます。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 本講義の意義 (概要、留意点など、これから学習する内容の説明確認) アイスブレイキング体験 1	事前学習	レクリエーションとは何かについて考える。
		事後学習	レクリエーションの理論と実際を復習する。 アイスブレイキングについて調べる。
第2回	レクリエーションワーク 体験・ディスカッション アイスブレイキング体験 2	事前学習	アイスブレイキングの方法を調べる。
		事後学習	アイスブレイキングの役割や自分なりに感じた事をまとめる。
第3回	レクリエーションワーク (幼児期1) 体験・ディスカッション (体験した後、より良くする為にはどの点を改善した方が良いかを話し合う)	事前学習	幼児期の特徴・留意点について考える。 幼児期のレクリエーションを考える。
		事後学習	ディスカッションを参考に良い点、改善点を自分なりにまとめる。
第4回	レクリエーションワーク (幼児期2) 体験・ディスカッション (体験した後、より良くする為にはどの点を改善した方が良いかを話し合う)	事前学習	幼児期の特徴・留意点について考える。 幼児期のレクリエーションを考える。
		事後学習	ディスカッションを参考に良い点、改善点を自分なりにまとめる。

第5回	レクリエーションワーク（児童期1）体験・ディスカッション（体験した後、より良くする為にはどの点を改善した方が良いかを話し合う）	事前学習	児童期の特徴・留意点について考える。 児童期のレクリエーションを考える。
		事後学習	ディスカッションを参考に良い点、改善点を自分なりにまとめる。
第6回	レクリエーションワーク（児童期2）体験・ディスカッション（体験した後、より良くする為にはどの点を改善した方が良いかを話し合う）	事前学習	児童期の特徴・留意点について考える。 児童期のレクリエーションを考える。
		事後学習	ディスカッションを参考に良い点、改善点を自分なりにまとめる。
第7回	レクリエーションワーク（青年期）体験・ディスカッション（体験した後、より良くする為にはどの点を改善した方が良いかを話し合う）	事前学習	青年期の特徴・留意点について考える。 青年期のレクリエーションを考える。
		事後学習	ディスカッションを参考に良い点、改善点を自分なりにまとめる。
第8回	レクリエーションワーク（高齢・老年期）体験・ディスカッション（体験した後、より良くする為にはどの点を改善した方が良いかを話し合う）	事前学習	高齢・老年期の特徴・留意点について考える。 高齢・老年期のレクリエーションを考える。
		事後学習	ディスカッションを参考に良い点、改善点を自分なりにまとめる。
第9回	レクリエーションワーク（障害者）体験・ディスカッション（体験した後、より良くする為にはどの点を改善した方が良いかを話し合う）	事前学習	障害者の特徴・留意点について考える。 障害者のレクリエーションを考える。
		事後学習	ディスカッションを参考に良い点、改善点を自分なりにまとめる。
第10回	レクリエーション事業計画1（幼児期）サーキットをテーマとして対象・時間・種目・ルール注意点や工夫することなどをグループでディスカッションをして計画案を作成する。	事前学習	レクリエーション支援の方法について考える。
		事後学習	レクリエーション支援の方法を確認する。
第11回	レクリエーション事業計画2（幼児期）発表、評価、振り返り	事前学習	レクリエーション運営の方法について考える。
		事後学習	発表の振り返りを自分なりにまとめる。
第12回	レクリエーション事業計画3（創作鬼ごっこ）（幼児期・学童期）対象・時間・種目・ルール注意点や工夫することなどをグループでディスカッションをして計画案を作成する。	事前学習	レクリエーション支援の方法について考える。
		事後学習	レクリエーション支援の方法を確認する。
第13回	レクリエーション事業計画4（幼児・学童期）発表、評価、振り返り	事前学習	レクリエーション運営の方法について考える。
		事後学習	発表の振り返りを自分なりにまとめる。
第14回	レクリエーション事業計画5（高齢者・障害者）対象・時間・種目・ルール注意点や工夫することなどをグループでディスカッションをして計画案を作成する。	事前学習	事業計画を考える。（運営）
		事後学習	事業計画を振り返る。
第15回	レクリエーション事業計画6（高齢者・障害者）発表、評価、振り返り	事前学習	今までの授業で行ったことを整理。
		事後学習	実際を振り返る。今後の課題を整理する。
15. 実務経験を有する 教員特記事項	「こどもの城」で長年子どもの体育指導を行ってきた実務経験を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		